

■北海道大も白星発進。北海道学生選手権第2節

第51回北海道学生アメリカンフットボール選手権第2節は8月31日、札幌市円山競技場で1部と2部の各1試合を行った。1部は前年3位の北海道大が同4位の室蘭工業大に66-0で大勝した。2部は前年優勝の北海道科学大と同3位の札幌学院大が対戦。北海道科学大が39-0とリードした第3Q途中で札幌学院大が棄権を申し出た。第3節は9月7日（日）、北海学園清田グラウンドラグビー場で、1部の北海学園大-東京農業大（午前10時開始）、北海道大-帯広畜産大（午後1時開始）を行う。

北海道大-室蘭工業大は、北海道大が攻守に圧倒した。北海道大は第1Q最初の攻撃シリーズでRB谷口遼馬（2年）の1ヤードダイブで先制すると、同10分にLB高山智史（2年）の21ヤードインターセプトリターンTD、同11分にはRB谷口の26ヤードTDランで加点して20-0とした。第2Qは4分にエースRB下島圭太郎（3年）の7ヤードラン、10分にWR/K雨宮暖（2年）の31ヤードFG、前半最後のプレーでRB後藤恭佑（1年）の28ヤードパントリターンTDも飛び出して36-0とリードを広げた。



後半も北海道大は攻撃の手を緩めず、第3Q5分には控えQB松永潤（2年）からWR米谷和馬（3年）へ6ヤードTDパス、同7分にはQB松永から

WR田中春乃介（1年）へ44ヤードパス、同11分にWR／K雨宮の32ヤードFGで52－0とした。第4Qにも2分と4分にQB松永からWR雨宮へ30ヤードと37ヤードの連続TDパスで66－0と大差を付けた。

室蘭工業大はRB友田悠斗（4年）と寺田海人（1年）のラン、QB原田颯太（3年）からWR西京介（2年）へのパスなどで反撃したが、要所で6回のパスインターセプトを喫するなど北海道大の守備を崩せなかった。

北海道大の樋之本彬HCは「ランもパスも出た。守備も完封できた。点差が付いたので1、2年生に経験も積ませられた」と順当な滑り出しを歓迎。先制点を含む2TDのRB谷口には「もっとレベルが上の相手と対戦した時に1対1の勝負が出来るように体をタフにしてほしい」と注文も出した。RB谷口は「2本目のTDはブロックが良かったおかげ。カットを切って狭いスペースを抜けられるのが持ち味なので、北海学園大戦に向けてもっと調子を上げたい」と決意していた。

室蘭工業大の半沢伸太郎監督は「攻撃が単調になりすぎた。2週間後の東京農業大戦に向け、しっかりと練習をして、次は地に足の付いた試合を」と巻き返しを期していた。



2部は北海道科学大と選手11人の札幌学院大が対戦。北海道科学大が第1Q5分、RB武部朔也（3年）の2ヤードランで先制すると、同9分にQB竹内一晴（3年）からWR川島大和（4年）へ3ヤードパスで加点。第2QにはQB竹内一晴からWR川島への10ヤード弾、同7分にはRB武部の68ヤードランTD、RB竹内連也（3年）の50ヤードランTDも飛び出し、前半を終えて33-0とリード。後半開始直後にWR今野裕太（3年）が35ヤードキックオフリターンTDで39-0としたところで、故障者が出た札幌学院大が棄権を申し出た。大会規定により札幌学院大の最下位が決まった。

北海道科学大の土屋竜馬HCは「武部は、竹内連也のリードブロックを生かした。2人のランをうまく使い、入れ替え戦を見据えて攻撃の手数を増やしたい」と今後にも期待。RB武部は「TDは初めて。試合前からTDしか狙っていなかった。2本目はFBが相手CBを抑えてくれ、そこから先は何も考えずに走った」と興奮気味に振り返った。

札幌学院大の塚本恭司監督は「選手2人がけがをして、試合を続行できなかった。次は3週間後なので、勝ちを目指してしっかりと練習したい」と気持ちを切り替えていた。

（学連広報委員 塚田博）